

(別添資料)

○臨時学校運営協議会の開催スケジュール

○学校運営協議会の主な意見（一時集約）

臨時学校運営協議会開催スケジュール

- 5月20日（金） 18：00～ 遠山3校合同学校運営協議会
- 5月28日（土） 9：00～ 三穂小学校第2回学校運営協議会
- 6月13日（金） 14：00～ 下久堅小学校臨時学校運営協議会
- 6月17日（金） 16：00～ 竜東中学校臨時学校運営協議会
19：00～ 飯田東中学校臨時学校運営協議会
- 6月28日（火） 10：10～ 竜峡中学校第2回学校運営協議会
- 6月29日（水） 10：00～ 鼎小学校・鼎中学校臨時学校運営協議会
16：00～ 緑ヶ丘中学校臨時学校運営協議会
- 7月4日（月） 19：00～ 千栄小学校臨時学校運営協議会
- 7月7日（木） 16：20～ 追手町小学校第2回校運営協議会
- 7月8日（金） 19：00～ 川路小学校臨時学校運営協議会
- 7月11日（月） 10：00～ 丸山小・飯田西中学校第2回学校運営協議会
- 7月13日（水） 17：15～ 松尾小学校第2回学校運営協議会
19：00～ 千代小学校学校運営協議会
- 7月14日（木） 16：00～ 高陵中学校臨時学校運営協議会
18：00～ 旭ヶ丘中学校臨時学校運営協議会
- 7月15日（金） 10：00～ 浜井場小学校臨時学校運営協議会
15：00～ 座光寺小学校臨時学校運営協議会
- 7月20日（水） 10：00～ 上久堅小学校第2回学校運営協議会
17：00～ 上郷小学校臨時学校運営協議会
18：00～ 伊賀良小学校臨時学校運営協議会
- 7月21日（木） 18：30～ 龍江小学校臨時学校運営協議会（延期⇒開催日未定）
- 7月22日（金） 10：00～ 竜丘小学校第2回学校運営協議会
- 8月1日（月） 10：00～ 山本小学校臨時学校運営協議会

R4学校運営協議会での意見交換【下久堅小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
緑ヶ丘中学校区	下久堅小学校 6/13	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数になっていくのは仕方がないが、逆に考えれば1人1人に目が届きやすいということになる。矢継ぎ早の教育改革の中で、子供達に求められるものはたくさんあるが、最終的には下久堅に帰ってくる。下久堅に帰ってきて良かったなという思いを持ってもらえるようになればいい。 ・今の子どもたちは折り合いをつけることが苦手。今後は保小の接続が大事になるのでは。 ・学力の向上が一番の優先順位。しかし学力はテストの点だけではない。人との関わりの中で真の学力がついていくのではないかな。 ・学校の役割とは学習をしっかりすること。地域では、原体験などを通じて地域を知り、人と関わることが重要になってくる。下久堅には放課後子ども教室があり、地域の方が子どもたちと関わる良い場所となっている。 ・公民館活動などで地域と子どもたちが直接関わるのは難しい。親がどう地域と関わるかがポイントになるのでは。 ・ICT＝補助的な役割である。人との関わり、友達とけんかをするなど体験から学ぶのが大切なのでは。しかし、これからの時代 ICT は生きていくために欠かせない能力となっていく。使いこなせる能力をつけていかないと出来ないが、それが全てではないことは認識していきたい。 ・子どもの教育よりも親の教育が大事なのは。地域の中で子育てをしていくとか、地域で生活する感覚は親とともに体感し身につけていく。親の頑張っている姿を子どもたちに見せていきたい。 ・地域が支えていることが下久堅のブランドにつながっている。子どもも減っていくが支える人も減っていく。学校、家庭、地域の三者が連携していくことが大事。下久堅のブランドに繋がることをより強化していく。 ・ブランド力は無理やり作るものではない。子どもたちと地域が関わっていく中で自然に出来上がってくるものではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 教育を不登校の子どもたちへの対応に活用できないか。 ・不登校の子どもたちも地域との関わりの中で選択肢が増えていくのではないかな。 ・ICTに大人がついていけなくなるのも問題。親も学んでいくことが大事。 	

R4 学校運営協議会での意見交換【竜東中学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
竜東中学校区	竜東中学校 6/17	<ul style="list-style-type: none"> ・竜東中の良さは小規模校であること。地域も田舎だけあって人柄もよい。子供たちも上級生と下級生のかかわりも強く、よく教えあえている。 ・人数が少ないために人間関係のトラブルが起きにくい。逆に高校や社会に出た特に人間関係に対する適応力を求められることになる。 ・人数が少ないメリットは授業中の一人ひとりの時間が取れること。先生とのかかわりの時間が取れることが大きい。 ・デメリットは、小規模小学校から中学生活で人数が増えることにより生活が変わる。そう考えると小中の連携だけでなく高校も含めた連携も必要ではないか。 ・中学生としてどういった力を培っていくか、集団生活は自分の自我を目覚めさせる機会であってほしい。そのための選ぶ力をもっと身に付けてほしい。 ・子供たちは自己肯定感が高い部分は引き続き取り組んでほしいし、自分を理解することも大事にしてほしい。 ・客観的データから精神的に安定し友達と切磋琢磨できていると思われる。 ・地域の思いは、学校、保護者、子どもと地域が繋がっていける関係が望ましい。地域の良さを学校で学び、将来的にこの地域に戻ってきてくれるようなきっかけ作りになってほしい。 ・自分の将来を生徒たちが考えるとき、地域の先輩たちの話を聞ける機会があると目標を定めるきっかけになるのではないか。 ・地域の良さを生かせるものは引き続き継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと竜東の集い」の話の中では、前向きな意見も多い中、将来的に戻ってきたいという考えはあるが、帰ってきててもなかなか結婚できないという課題もある。また、地域の課題として地域に住み着いていないという課題もある ・ICT も効果的に活用できるように引き続き考えていただきたい。 	

R4 学校運営協議会での意見交換【飯田東中学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
飯田東中学校区	飯田東中学校 6/17	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は学区を取払い生徒が自由に学校を選べるようになる時が来るのではないかと考える。柔軟な考え方が必要。自由通学区により子供たちは特色ある学校を選ぶことをしていくと思われる。 ・ここから遠山地区の学校へ通っている児童生徒もいる。逆に向こうからこちらに通いたいと考えている児童生徒もいるのではないかと考える。バスターな考え方も大切にしたい。 ・今は学区を自由に選択できない。であれば、望んでも望まなくても東中に通う事になる。 ・東中の歴史やりんご並木の成り立ちなどきちんと伝える必要がある。各年代の方をお呼びして当時の話を写真付きで話してもらおう事で、東中の歴史の流れや今との違い、りんご並木創設当時の話を聞くことで、自分たちが活動するりんご並木がいったいどういうものなのかを、より理解することができるのではないかと考える。1年生の早い段階でそのような機会を設けていく必要がある。 ・丘の上にある学校として周辺の文化環境施設(文化会館・美博・りんご並木等)を生かした文化的活動に触れることのできる都会的なコンセプトのある学校が東中の良さではないかと考える。 ・東中ではこんな学校にしたいといった将来ビジョンを掲げた話し合いをしていきたい。 ・りんご並木の活動が、地域で活動している割合の数値をあげていると思う。生徒数が減って地域と共にやむを得ず活動する必要が出てきたが、結果的に良かったのではないかと考える。 ・どんな活動をするかよりも、なぜこの活動をやるのかという気持ちを大切にしていきたい。「この街を大切にしたい」という気持ちを持つことが、将来的にここに住みたいと思えることにつながるのではないかと考える。 ・この中学校区は地域の行事がとても多いので、関わる機会が多いと思う。 ・小学生のときから地域と継続的に関わる大切。中学生からはなかなか難しい。 ・信州大学の出先機関が東中に入っている。信大の方による、放課後特別授業をしたらどうか。新しい取り組みとしてどちらにもメリットがある。東中だけの特別感がその学校の魅力に繋がると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長の付く方々が参加しての意見交換でなく、長の方々が色々な意見を吸い上げ意見交換が行う等、現場の意見を生かせる仕組みづくりが必要。 ・統廃合を見据えた場合、メリットやデメリットなどの具体案を示した話し合いではないかと議論が進まないのではないかと考える。ゴールを目指して進まない今の状態では足らぬと感じる。 	

R4 学校運営協議会での意見交換【竜峡中学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
竜峡中学校区	竜峡中学校 6/28	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感についてこれだけの数値があればこの地域では立派なことではないか。このことは子どもだけではなく大人についても言えることではないか。それが竜峡地区の人柄とか地域柄を表しているのでは。 ・学校の課題である自己肯定感の低さについて、地域で何とかしていこうという部分には限界があるので、学校として様々な活動をした後の振り返りが大事ではないか。自分は何を学んだのか、何ができるようになったのか、という振り返りや意味付けを積み重ねていくことが大事である。 ・地域に対する意識が中学生も高まっていて嬉しいことである。保護者の皆さんも同じように思っていてもらえることが大事。あったかい竜峡中学校区の人柄や地域柄で子どもたちを育てていきたい。 ・自分がこうなりたいという目標を持ってもらいたい。それには様々な出会いや体験活動を積み重ねることで目標を持つことができる。キャリアフェスティバルのような活動は効果的である。 ・地域の願いとしては、基礎学力をつけて地域社会で仕事ができるようになってほしい。地域の良さを理解して戻ってきてほしい2点である。 ・学校とか地域に愛はあるが将来の夢については不安がある。将来ここに住むというイメージを具体的に考えていくと、そこがはっきりしない部分もある。本校の学区だけでなく、飯田市全体でもそういうことがあるのではないか。 ・リニア、大学誘致、女子短の共学化など、学生の流出を防げる可能性も飯田市として出ているので、農業など地域の良さを活かしながら進めていきたい。 ・生徒の人数が減って伝統ある部活動が成立しなくなってきている。自由通学区でもいいかな、という意見も出たが、地域としての魅力や学校としての魅力がなければ自由通学校区の選択として選ばれない可能性もある。そこもまたしっかり考えていく必要がある。 ・踏み出す力が弱い。社会に出たときに困ることがないようにしてあげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は少子化や施設の話。地域によっては統廃合、合併の議論も。今年は魅力ある学校づくりが話の中心であったが、少子化とか学校の統廃合というのは避けては通れないもの。全く議論がされないというのはよくないことなので、そのことも含めながら話がしていけるといい。 	

R4 学校運営協議会での意見交換【鼎小・中学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
鼎中学校区	鼎小・鼎中学校 6/29	<p>・鼎地区の学校は小中一貫の強みという部分もあるが、児童生徒が少し内向的、保守的であり、限られたメンバーの中で過ごす中でチャレンジしていく感じが薄くなっている。そこに対するアプローチとして、生徒の多様な価値観をいかに育んでいくかであり、現状だと選択肢が少ない。地域と一体となって選択肢を増やしていきたい。鼎地区は地域資源が充実しているので、そういうものとの関係・連携を強くし、多様な価値観を醸成していく。多様な価値観に応じられる地域にしていきたい。</p> <p>・鼎中学校はライジングプランの中でお互いに高め合う学びに取り組んでいる。基盤になるのは良好な人間関係。それを育むには小中一貫という環境が強みになりうる。環境の特性を活かしながら地域全体として教育を考えていきたい。</p> <p>・現在鼎は一色や切石を中心に他地区からの流入、若い方が増えている。新しく入って来られた保護者の方にいかに鼎小中の教育方針を理解してもらうのが大事。小中ライジングプランがあるので丁寧に、そして繰り返し伝えていくことで理解していただくようにしたい。</p> <p>・地域に誇りと愛着を持つ子を育てたい。地域の誇り、鼎の誇りって何だろうか？学校も地域もそれをわきまえた上で教育活動を行なっていきたい。そうすることで大人になって鼎に戻ってきたいという心が醸成されるのでは。</p> <p>・基本的に挨拶ができる子どもたちを育てる学校、地域、保護者、家庭がつくれれば、多くの課題が解決されるのでは。不審者、コロナ禍における人と人との関係などがあるが、挨拶そして人と人が認め合うという活動を推進していくことが学校や地域でも必要である。</p> <p>・今、中学生はボランティアステーション等で地域に出るようになってきており、いずれは小学校にも広げていきたいと考えているが、保護者の方は小中学生が地域の活動に参加することについてどう思っているか。賛成の人もいるし反対の人もいる。学校と地域で子どもたちを育てていくという鼎の考え方を知っていただく機会をつくってきたい。</p> <p>・今後に向けて、人的環境と物的環境を整えることが必要。飯田市では信大情報学部を誘致している。鼎といえば情報機器、情報を使った活動というようなメインの看板があると子どもたちにとって拠り所になるのでは。</p>	<p>・保護者に積極的に関わってもらいたい。家庭の意向が子どもたちの生活、生活、行動にも反映するし、地域とつながることも保護者に背中を押してもらおうことが大事。</p>	

R4 学校運営協議会での意見交換【緑ヶ丘中学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
緑ヶ丘中学校区	緑ヶ丘中学校 6/29	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりを重視してほしい。小学校は地域にすごく近いのに中学校は少し遠く感じてしまう。地域の活動の姿が見えなくなってしまう。地域の住人と触れ合う時間の確保を学校からも後押ししてほしい。 ・地域にとって中学生の存在はかなり大きい。地域に出てきてほしい。中学生の学びにもなるし、大人側の刺激にもなる。 ・地域で活動する中で自分で判断できる力をつけてほしい。 ・不透明な時代なので、新しい価値を見つけられる子供たちを育てたい。 ・中学生の自信のなさ。親が危ないことをさせないようにしているからか？ ・友達同士の関係性がどうなっているのか。上下関係や横のつながり。人間的に魅力的に育ててほしい。そのためにも横のつながりが大事ではないか。一生の友人は小中学校のつながりが多いのでは。 ・リニアの時代になるといろいろな選択肢が出てくる。中学生も都会へ行って学ぶという選択肢も出てくる。小中学生のうちの地域へ出た時の原体験が地域への愛着へつながっていく。外に出ても地元に戻ってくれるような中学生を育てていきたい。 ・中学校に求められる役割が増えているのでは。自己肯定感というようにところまで求められている。勉強だけでは無くなってきている。難しいところ。 ・コロナ禍で地域に出る機会が減少し、地域の方との触れ合いが減る→自己肯定感が低くなっている要因になっているのではないか。一方でコロナ禍で行事は少なくなったが家庭での時間が増えてありがたいという保護者もいる。 ・コロナ禍で友達同士のコミュニケーションが少なくなっている。意見を出し合って多様性を認め合う場が少なくなっている。それが自信につながる部分でもある。 ・コミュニケーション能力の低い子一家庭でのコミュニケーションが取れない。家庭に問題を抱えている子がコミュニケーション能力が低くなるという傾向がある。家庭の中で親子の関係性ができているということを大事にしなければならない。最近言われるようになった多様性という観点からは、コミュニケーション能力が低いのも個性の一つと捉えて認めてあげることも大事である。 ・コミュニケーション力と生きる力が大事である。コミュニケーション力を高めるために、学校ではプレゼンなど相手を意識した授業に取り組み、家庭では家庭での会話を大切にしていきたい。 ・地域と学校については、スポーツやさまざまなボランティア活動などを考えていきたい。 		

R4 学校運営協議会での意見交換【千栄小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
竜東中学校区	千栄小学校 7/4	<p>・客観的データは学力検査の成績はいいが、人数が少ないと競争心が少なく、みんな仲良くで、家庭勉強しない傾向なのか…。ただ、少人数だと手が入り落ちこぼれが少ない。ICTは先進の教育。これからはどこにいても仕事をしたり勉強したりできる。</p> <p>・人数が少なく競争心がないと高校に行った時大変。これから社会へ出て行く時を考えると少人数は良くないのでは。子供のことやこれからのことを考えていくべき。昔から千代、千栄が合併すればいいという考えはあったのだが…。</p> <p>・子どもには競争心がないとは言わないでほしい。子どもは学校を選ぶことはできないし、子どもたちはどうすることもできない。言い方も建設的な話し方で表現できたら。否定的な言い方はしないでほしい。</p> <p>・飯田市、長野県、全国 どのグラフも同じようであり変わらない。これから求められるのは全国同じ発想ではなく、学校独自の特色では。それが生き残りにつながるのでは。少人数の弱みはコミュニケーション。他校との交流はモニターを通して行うとか、外国とも交流し国際交流ができるといい。少人数の子どもたちは自分の意見を主張する時に怖気付いてしまう。画面上でもいいので自分の意見をはっきり言うということを積み重ねていけば、少人数の学校でも改善できるかもしれない。</p> <p>・リニアの時代に向けて、自分の地域の魅力を感じ、愛着を持ち、地域に根付いてほしい。小学校がなくなると地域がなくなってしまう。地域機能は学校中心に行われている。地域の住人の人口が減少し、益々高齢化が進み、少子化が進む。中学校は何箇所かまとまって作っても良いが小学校は地域に密着してほしい。</p> <p>・社会的にはオンライン、どこにいても仕事ができる仕組みが育ってきている。学校も将来そうなるっていく。小さな学校も他校との交流を進めていく。そういうものを含めて地域の学校の在り方を考えていきたい。</p> <p>・一番危惧することは、学校がなくなったために地域がなくなってしまうこと。小学校が統合になった時にも地域に若い子育て世代が残れるようにしていかなければならない。地域の魅力を発信しながら地域に根付いてもらいたい。地元で育った人は地元で子育てしてほしい。外の人たちに来てもらいたいと言っても難しい。地元で育った人たちが地元で子育てをし、仲間を引き込んでほしい。誰かを頼るのではなく、一人一人が思いを持って取り組んでいくことが大切。</p> <p>・男の子は男の子と、女の子は女の子と遊びたい。1人しかいない学年はぜひ交流を行っていただきたい。</p>	<p>・意見集約や吸い上げの部分について実際に意見を吸い上げて実行に移していくとなると10年くらいかかってしまうのでは。これから生まれる子、結婚する人が関係してくる。そういう人たちの意見も吸い上げてほしい。</p> <p>・学校だけでやっていくのは大変。地域や公民館も協力し、中学校区で協力していく。</p>	全体意見交換方式

R4 学校運営協議会での意見交換【追手町小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
飯田東中学校区	追手町小学校 7/7	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には良いところがあるのか」が全国、県、飯田市とも全体的に下がってきているが、コロナの影響が出ているのではないかと追手町小は下がり方が大きいと、子どもたちと関わっているとそんな感じがしない。子どもたちの自己評価基準が高いのではないかと。 ・客観的データの結果から、この年の子どもたちの特徴はこうなんだと捉えられる。大勢いる学校と少人数の学校では意見の出し方や主張の仕方が違うのではないかと。少人数の学校ではちょっと言えば伝わる。それが追手町の特徴では。 ・追手町小学校の子どもたちは真面目で素直。また核家族が比較的少ない。子どもたち自身も謙虚。コロナ禍になってから子どもたちの表情が本当に変わった。感受性の強い子どもが多いのでは。真面目で素直なだけに指導次第ですごく伸びるという期待感を持っている。 ・橋南地域の方々には自分の家の子だけでなく、他の家の子どもたちにも愛情を分け与えてくれる。子どもを安心して通わせることのできるのも地域の特徴。小6の時点で自己肯定感が低くてもしっかり関わっていければこれから変わっていくのでは。 ・生徒、先生、地域の皆さんがいかに協力してスクラムを組んで子どもたちを育てていくのがポイント。どこかが欠けてもおかしくなる。周りの皆さんにも声をかけていただき、みんなで子どもを育てようという気持ちを持ってもらえるといい。 ・この子はおとなしい。大規模校ではわからないことを聞かないが、追手町小では聞くことができる。 		<p>全体意見交換方式</p> <p>11月に学校運営協議会より範囲を広めた意見交換を実施する計画あり。</p>

R4 学校運営協議会での意見交換【川路小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
竜東中学校区	川路小学校 7/8	<ul style="list-style-type: none"> ・川路の良いところは地域と学校の繋がりが強いところ。これからも地域との繋がりを大切にしていきたい。 ・中学校に行って、別の小学校から来た生徒の刺激がよすぎて辛い思いをしている人もいる。今はリモートで他校と繋がり、中学校に入る間に友達になっている。他校を含めいろいろな人と繋がっていくことを大切にしていきたい。 ・しっかり学力をつけていくことが大事である。ゆったのんびりしている川路の子どもたちは学習習慣をきちんとつけていきたい。 ・川路は自然がとても多いところなので自然を生かした学習をどんどん行ってほしい。自然の中で育った子どもは心が強く優しくなる ・川路にはいじめがない。学校はとても楽しいという意見が出ているが、今後もいきたくなる学校を目標に取り組んでほしい。 ・川路は人数が少なく目が行き届いているのでいじめはないが、踏み出す力が少ないのは、逆に人数が少ないので揉まれていないのと、個々の目標がなく努力したくないというのがあるのではないか。 ・子どもの現状は家の中でゲームやパソコンで外では遊ばない。学校では体を動かすことをいろいろ取り入れてやってほしい。 ・子どもたちのあいさつが年々良くなって来ている。いじめがなく、少人数だからこそ仲が良い。家族のような小学校であり続けてほしい。 ・川路に帰って来たいという子どもたちが多いが、それに応えられる地域でありたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々とのコミュニケーションを先生方もとってほしい。地域の行事に参加してほしい。地域と学校が近づける。コロナの影響で保護者同士も会う機会がない。コロナが落ち着いているときに人の集まる機会が作れると良い。 	

R4 学校運営協議会での意見交換【丸山小・飯田西中学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
飯田西中学校区	丸山小・飯田西中学校 7/11	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の案には具体性がない。自分たちは競争の時代に生まれた世代。今はそうではない。どう育てるかをこのレベルで話しているのか。もっといろいろな世代の人に入ってもらっての検討が必要。どういう教育がいいのかというようなデータがない。具体的な形で出してもらいそれについて検討していきたい。 ・昨年度も同じことを話した。学校運営協議会で考えていくと空洞になってしまう。現役の先生方の考える具体像は？具体的スケジュールやタイムリミット等それも示さずにもう3年間考えましょうというのは無理である。 ・学校がどういう風になっていったら良いか、そんな資料がないとわからない。こういう資料をいつまでに揃えましょう、メンバーはどういうふうにしましょうというような具体的なスケジュールを決めてしまえば、前に進めざるを得なくなるのでは。これから子どもたちを育てていく世代の人たちが何を求めているのか、意見を聞いていかないといけない。 ・今年度の進め方の着地点は、「学校教育に求めることや学びの環境づくり学校の特色づくり等についての意向調査や意見交換」ではないのか。このためにこの1年間は何をするのか考えていかないと。これからの子育て世代はどのように考えているか？その意見をどうやって汲み上げるか？等を具体的に考えていかないと。 ・学校の配置、枠組みとは何であるか。去年はデータを示しただけで教育委員会は何を考えているのかわからなかった。学校の配置、枠組みというのは話の中で結果として出てきたことであって、テーマを教育委員会の方から投げかけられて話をしたわけではない。今年、最初にこれからの子育て世代の考えを汲み上げていかないと話が進んでいかないと。これから子どもを育てていく世代の思いを大事にしていかないと。我々は地域をまとめなければならないときに出ていくもので、全面に出ていくべきではない。自分達も2年任期で交代すればまた0からのスタートになってしまう。教育委員会ももっと矢面に立たなければならない。 ・長野県の高校再編は具体的な案を出してからいろいろな意見が出るようになった。教育委員会としての方向性が出ないと議論が巻き起こらない。例えば丸山小学校の5年後のクラス数と児童数や10年後の状況等のより具体的なデータが必要。西中学校区でやるなら、飯田市全体というマクロな数字とともに、丸山小学校、飯田西中の具体的な数字を示さないと論議にならない。 ・特色ある学校づくりとは？私立ならわかるが公立学校、義務教育では難しいのでは。学区が決まっていける学校が決まっている。学区を取り払う方法もありなら、通学方法はどうかなどについても話す必要がある。そうすれば小中学校の在り方そのものの話をしてくれということになる。 ・具体的に検討するものが見えないし何もないところから方向を求められている。特に特色は何かでは非常に難しい。 	<p>(丸山小校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前任校は根羽義務教育学校で2年間準備をして2年間運営してきた。中学校、小学校と保育園と未満児の親にアンケートを実施した。一番意見をいただいたのは小さい子の親たち。10年後に関わる親、生まれたばかりの子を持つ親が最も切実感を持っている。天龍村も小中併設校へ向けて進んでいる。小さい子を育てている親が一番関心を持っている。幼児をもつ親にはSNSでアンケートをとればいいのでは。現在学校要覧にのっている目指す子ども像も10年 	<p>小グループでの話し合いを計画していたが学校運営協議会における進め方について全体での意見交換</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化については丸山地区では実感がない。会議には松尾や鼎の会長も出ているがある程度子ども数が多い地区は会議に出ても現実として感じる事ができない。 ・今考えるべきことは特色ある学校づくりでなく、あるべき教育水準を将来にわたってどうやって保持していくかを話し合っていくべき。このまま行ったら物理的にも教育環境が維持できない。逃げているも仕方がなく向き合わなければならない。先送りすればするほど厳しくなっていく。 ・義務教育とは一定水準の教育を確保していくこと。そのために何が障害になっているか。それが少子化と学校の耐久年数の問題である。それを解決しないで特色ではない。 ・児童数が減ることによって専科教員が減るなどのデメリットを被ることになる。なぜ統廃合の話が出て来ないのか？ ・最初から統廃合などの枠組みを決めて特色ある学校づくりをして行けば良いのでは。 ・統廃合に反対するのは我々世代。我々世代は少し引いていた方がいい。我々の時代は先生ともっとくっついてた（家庭訪問など。）今より先生たちが地域に出てきていた。教育委員会の方で案を出してもらい、これからの世代がそれについて話し合っていた方がいい。今のこの地域の中で子どもを育てるにはどうしたらよいかを考えていった方がいい。 ・地区でいうと、羽場坂は今ほとんど児童がいないような状況。高羽南と統合しようとしている。減っている実感はあり、今後なんとかしたいと思っている。 ・「これからの子育て世代の意見を吸い上げる」といった進め方からやっついていかないと。全部の保護者に意見を聞くなど。 ・特色と言ったら小中一貫校。いろいろな選択肢があるからそういうのも視野に入れていかないと。 ・中学校では学力が課題になる。定期テストの平均とか分布とか数字として問題が見えてくる。今回話し合っていることは漠然としていて分かりにくい。 ・いずれにせよ全員賛成はあり得ない。どこまで議論を尽くしていくかしかない ・学校現場の先生方の意見も聞きたい。プロの目を見たものは我々とは違うはず。本当にやりたい教育ができるかどうかは切実な問題。最低どのくらいの規模で、どのくらいの範囲から通ってくるのか、そういうのはあるはず。 ・丸小 150 周年がある。将来に向けてのことをやりたいと思ったが・・・。時間的に苦しいので諦めたが、これまでの丸小の歴史を踏まえてこれからどうしていくのかは考えていきたい。 ・今は結論は出ないと思う。教育委員会もメンバーが交代したばかり。もう 1 回こういう話をきちっと取り上げてもらって、直近にやるべきことは何かについてきちんと整理した方がいい。・旧市街地の 5 校ある小中学校がどういう方向に進むかが具体的に見えてこないと前に進めない。いろいろ大変だけどそこを突っ込んでいかないと動かない 	<p>くらい前のものブラッシュアップしていった方が良い。昨年遠山地区で講演もした。丸山小でやることも可能。</p> <p>（西中学校長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿南町に住んでいるが、一中と二中の統合について四半世紀苦しんでいる。令和元年に諮問機関の答申が出た。地域で話し合ってもらう予定であったがコロナでできなくなった。飯田市教委も諮問機関を設置して検討を予定しているが、会議のゴールを示してほしいそうしないと延々と議論を繰り返すだけ。 	
--	--	--	--

R4 学校運営協議会での意見交換【松尾小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
緑ヶ丘中 学校区	松尾小 学校 7/13	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾小の特色はサイエンススクール。身近で大人に教わる、そして大人も楽しんでいるという活動が伝統として継続されている。子どもたちが地域に目を向けるのを高めている。 ・成人式の前に地域を知るという活動をしている。新成人のみんなが「小学校の時どんなことをしたの」という話をする。地域に戻って来たいという気持ちになるのでは。 ・今後は社会から求められる人材も変わってきている。何かに秀でる、意見をいうことができるという子どもたちを育てていきたい。 ・上級生と下級生が上下関係ではなく良い関係で活動している。社会体育でもそれが出ており、小学校での良いコミュニケーションの積み重ねによるものである。 ・松尾小の特色は旭松などの地元企業との連携の良さ。逆を返せば仕事に対する視野が広がることにより、客観的データの夢や目標についての質問に対する数値が下がっているのではないか。地域にはたくさんの企業がある。これからもどんどん外に出て地域の企業と繋がりのある学校でありたい。 ・飯伊 PTA 連合会で松尾小学校の良さをアピールした。飯田市の副学籍制度は今年 7 年目で居住地交流を行っている。養護学校の子どもが地域の子どもとして松尾小に登校、交流する中で様々な経験や共生の環境に松尾地区がなっていくのではないか。 ・祖父母と一緒に住んでいる子どもたちは明るく素直であると感じる。学校ボランティアで学校とつながると、ちょっと不器用な子もいる。そういった子はもっといろいろな経験を地域でできると良い。ただ、コロナ禍で地域の行事に参加しづらい状況がある。参加できるようになり地域と子どもたちのつながりが深まれば。 ・松尾地区はよい子どもたちが育っている。横断歩道での挨拶。あいさつ運動の成果が出てきている。 ・子どもたちの気持ちのいいあいさつは地域でもできているので大事にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時に立つなど地域での見守りが有難い。 	

R4 学校運営協議会での意見交換【千代小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
竜東中学校区	千代小学校 7/13	<ul style="list-style-type: none"> ・千代小学校は地域とのつながりが強い。地域行事に積極的に参加している。ただ地域行事に全く出ていない子もいるかもしれない。 ・地域の人たちと触れ合い地域の良さを知ってもらいたい。地域のイベントに参加してほしい。学校の中だけの発表でなく地域の中でも発表してほしい。コロナ禍で子どもたちの状況を直接見ることができないのが残念。 ・学習したことを活かして実際に行動する。人と人とのつながり、コミュニケーションこの2つが大事だと思う。 ・クラスが複式になったとき、子どもたちにとってのデメリットは、多様な意見を聞くことができなくなる。オンライン授業を考えていかないと。 ・ICTでのオンライン授業を広げていけたら(千栄小、上久堅小など)。 ・オンライン授業は大人でも馴染まないという感覚がある。子どもたちは実際に相手が近くにいるのと全然違うのでは。 ・オンライン授業について子どもたちは楽しかったと答える。7人しか聞いてもらえないがオンラインでは30人近くに聞いてもらうのが新鮮だったという子もいる。 ・ジャムボードに付箋を記入するとき自分の頭の中を常に見られているという感覚ではないか。 ・コミュニケーションであるとか対面でしかできないものもある。そういうものはオンラインでは苦しい。 ・勉強時間が少ない。先生がくれたものが全てでチャレンジが届きそれをやっている子、積極的に学習しているという感じではない。終わったら次の学習課題を準備しておいてほしい。 ・地域は学校を中心に回っている。千代っこ応援団などは学校の存在は大きい。仮に統合し地域に子どもたちがいなくなると困る。若い人たちに地域に残ってもらい地域で子育てをしてもらえるよう地域としても取り組んでいきたい。 ・少子化は避けられない。どういうデメリットがあるのか。教育委員会として、学校として、子どもたちとして。昔の千代村の中には学校が2つある。子どもたちが少なくなるとスポーツ関係ができなくなる。野球やサッカーはできない。デメリットを1個1個リストアップして考えていければ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化について、これから小学校に子どもをやる親、これから子どもができそうな世代 育てていく世代 そういう人たちがどう考えているのか、が大事 そういう人たちの意見を拾えるようにしたい 	全体意見交換方式

R4 学校運営協議会での意見交換【高陵中学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
高陵中学校区	高陵中学校 7/14	<ul style="list-style-type: none"> ・高陵中学校区のイメージはスポーツが盛ん、学校がコンパクトな地域に入っている、学府のよう、身近なところにたくさん働く場所がある。 ・魅力は、小・中・高、場合によっては将来大学が来るかもしれない。企業とも連携できる可能性のある地域である。学力だけでなく小・中・高・大・企業が連携して人間性を高めていく。また、キャリア教育をきちんと行うことで、地域で子どもたちを育てていくことができる。これが地域の魅力になれば。 ・地域との関わりについて、地域の行事や活動に小学校の時は参加するが中学校になるとなかなか出てこない。公民館でも様々な行事を企画するが小学校向けが中心だが、中学校向けのものも行いたい。運動会などには中学生に関わってほしい。高陵中学校では地域との交流をテーマに全校総合を行なっている。そこから色々な地域との関わりが始まっていくことを期待する。 ・地域の行事へ中学生も積極的に関わっていければ、そのような機会を学校としても仕組んでいきたい(KTT 活動など) ・学校と地域の連携をより強くすることができればよい。例えば座光寺地区の夏祭などをきっかけに。子どもたちのポジティブなエネルギーをどう生かしていくか。高陵中は今までは上手くいかしてこれなかった。 ・高陵中の生徒は不満へのエネルギーは強いが、何かをより良くしていきたいというエネルギーは小さい。たくさん生徒がいるので多様性を認めながら自分達で一步踏み出していくというようなポジティブなエネルギーを活かしていく場を作っていきたい。 ・将来の夢について、数値は低いがある意味子どもたちは現実を見ているのでは。 ・人間関係について、元気な子は元気、静かな子は静か。みんなの前で褒めないでほしいという生徒心を開いていけるように。 ・自分で未来を切り開く力をつけていきたい。学校は楽しい場所ではなく、自分で楽しむ場所である。楽しんでいくんだと捉えることが未来を切り開く力につながっていく。 ・自己肯定感の低さは、核家族化が進み、祖父母と生活していないためか褒められる機会が少ないのでは。地域との交流が少ないのであいさつなども家庭も地域との関わりを増やすことで変わっていける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座光寺小学校と上郷小学校の交流が難しい。昔は 4 日間なしの袋かけをすることにより地域と方々との交流の場があった。袋掛けなどで子どもたちの名前を覚える事ができたが、現在では難しく顔と名前が一致しない。現在はゴミゼロ運動を通して交流が深まるが中学生になると出なくなる。また、子どもたちは習い事などで忙しい。交流の場がなかなかできていない。 	

R4 学校運営協議会での意見交換【旭ヶ丘中学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
旭ヶ丘中学校区	旭ヶ丘中学校 7/14	<ul style="list-style-type: none"> ・旭ヶ丘中学校生徒全体についてはそれほど問題があるわけではない。 ・学力に自信がない子は自信がなくなってしまう傾向がある。 ・学力だけではない自分の良さを感じられるような関わりができていくといい。地域の中でもそのような場を作っていきたい。 ・自己肯定感が低いという話があるが、部活など得意なものがあればいい。 ・地域行事に参加する割合が少ない。保護者の協力も大切である。 ・得意なものが見つからずに自信がないという生徒もいるが、地域の活動に関わり手伝う中で地域の大人に「よくやっているねえ」などと認めてもらう中で、自信がついたり相談できる人ができてくるのではないか。 ・特色を出すということにどういう意味があるのか。学校は学力とか生きる力をつけていくことが大事。飯田市として、行政として魅力を創り出していく必要がある。 ・一時的に不登校になった生徒に職員が親身になって迅速に対応してくれて、お友達も巻き込んで「学校に戻っておいでよ」などと積極的に関わり登校できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活について今の状況を続けていくには難しい状況がある。今後のあり方には検討が必要。教員の不足や負担などについて地域の側から行政に相談していくのも1つのやり方。 ・部活などを通して自信を持てたり仲間と繋がることができる。文科省の提唱する部活の地域移行について地域に受け皿があるかどうか心配。中体連でも連合チームで参加するケースも出てきている。チームスポーツの特徴であるチームとしてのまとまりが出来るかどうか心配。今は忙しくて関わることができないが、自分が引退した暁には地域の(部活動の)受け皿になっていくようにしたい。 	

R4 学校運営協議会での意見交換【浜井場小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
飯田東中 学校区	浜井場 小学校 7/15	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感が高くないのは自分の居場所を感じられていないのではないかと。地域でも子ども寺子屋や休み中の預かり事業で、学校へはちょっと行きづらいけど地域には居場所があると思ってもらえることで子ども自身の気持ちも変わってくるのではないかと。地域は地域として子どもを受け入れることに力を入れて、親とか先生以外の異年齢の交流、高齢者とつながることで話す機会をつくり、その方に怒られたり褒められたりすることで、自分の価値を見出すことができるのではないかと。学校ではそれぞれの個性を大切に、多様性が認められる学校になっていけば10年後20年後も生き活きと暮らしていけるのではないかと。 ・自然の中で遊んだ楽しい経験は大人になった今でもいい思い出になっている。そこから故郷の良さを感じられるのでは。今は危険な場所からは子供たちは切り離されており、本当の自然体験ができていだろうか。 ・特色ある学校づくりについて、自然が豊かなどということでは、特色があるということにあたらな時代がやってくるのでは。子どもの個性を大切に多様性を認める学校であり続けてほしい。 ・子供のうちに失敗から学ぶ機会を与えたい。大人になってから失敗に耐えられない人が増えてきているのでは。危険な場所でも活動をさせ、子どもの頃から危険を感じとる力をつけていきたい。 ・特色ある学校として、円筒校舎を面白い建物として追求していけば魅力的なものになるのでは。例えば公民館を入れるなど学校だけでなく複合的な使い方を考えていくのも面白いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少でもそこにいる人が幸せなら良いのでは ・子どもたちの数が少ない。人数が少ないのは教育の密度が高くなるという利点があるが、教育には一定の数が必要なのでは。1つのアイデアではあるが1～4年は現状通り小学校で5・6年生は追手町、浜井場とも飯田東中へ登校し、小中一貫教育の連携を深めていく。そういう仕組みができないか 	

R4 学校運営協議会での意見交換【座光寺小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
高陵中学校区	座光寺小学校 7/15	<ul style="list-style-type: none"> ・座光寺小学校は自然が多い。自然の環境にマッチした遊びの森から賑やかな声が聞こえる学校である。遊具の老朽化で痛んだところを直しながら自然の中で元気に遊んでほしい。 ・自然豊かな中で自然と触れ合いながら学びを深めていくのが座光寺の特色ではないか。 ・自治会や公民館などの地域の活動について、子どもたちは参加したいが親である大人の足が一步引いているのでは。子どもたちも遠慮がちになり機会が失われていくのではないか。親も積極的に参加を呼び掛けたい。 ・座光寺小学校の特色として地域とのつながりが強いこと。地域の子どもを地域で育てるという意識が強い。自己肯定感が高いのはお互いに認めあうことが増えたからではないか。 ・表現力が豊かになった。大人と話をしたりしてつながりが強くなり、自分に自信が持てるようになり表現力も豊かになったのでは。 ・中学、高校を卒業してからも座光寺に戻ってきたいという環境づくりが必要。地域の活動に参加することでそのような思いが生まれてくるのでは。 ・子どもたちにも一緒にこの地域を良くしていきたいという気持ちもあるのでは。 ・登校時、急坂を上がってくる子どもたち。他の学校にはないこれも座光寺の特徴であり 高陵中へ行っても急な坂もなんのその。それも座光寺の特色かな。 ・座光寺の子どもたちは横断歩道で停まってくれた車に対して一礼。大人も嬉しく思う。中学生になっても続けてほしい。 ・座光寺小は小さくまとまり規模もちょうど良い 大人がまとまっているので子どもたちもまとまっている 		

R4 学校運営協議会での意見交換【上久堅小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
竜東中学校区	上久堅小学校 7/20	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体が家族。みんながみんなを知っている。その子の親のことも知っている。これも上久堅小の特色である。 ・少人数ゆえ役が回ってくる。一人一人の出番が多く結構大変だが、集会などでの発言は当たり前のようにできる。人数が少ないのでまとまりがある。友達同士も固まり関係性が変わらない。 ・学年を超えた交流。上の学年が下の学年の子どもたちの面倒を見ている。 ・やんちゃな子がいない。逆に良い子すぎる。校長講話1つで子どもたちのあいさつが大きく変わる素直な子どもたちである。 ・広い校庭でのびのび遊ぶことができる。(人数の多い学校ではなかなかできない) ・街からは遠いが車があるのでそれほど不便ではないが子どもたちの足もない。バスなどがあれば良いが、自転車は活用できない(坂が多い)。また、隣の子どもの家が遠いので友達の家になかなか遊びに行けない。 ・オンラインで不登校の児童生徒が参加することができたという事例もある。修学旅行は3校一緒。社会見学も。交流はオンラインで可能。 ・少人数校は地域とのつながりが太い。今年は春先に各学年の先生方とまちづくり委員会、公民館長、主事さんと今年1年こんなことをやりたいという各学年の希望を聞く会が開かれる。これにより、地域とのつながりのパイプがより太くなった。「上久堅の美しい景観を守る会」30名近くおりこことも繋がっていききたい。 ・地域の人たちが自分の子のように関わってくれる。若者たちは結婚して町に出て行ってしまうので、近くに仕事場が必要である。Iターンもいるが地域全体としては大きな存在ではない。 ・児童と地域の大人との関わりがさらに増えるといい。集団生活をする中で学ぶことができる。オンラインだけだとそういうことは期待できない。 ・今年ボランティアでシニア世代の方々に入ってもらおう。大人が1人いるだけで子どもたちの活動はダイナミックにそして効率が良くなる。児童が少人数になる→職員の数が減る 大人が必要なときボランティアさんは大変ありがたい。 ・地域にとって、学校は夢であり、希望であり、象徴でもある。小と中では求めるものが違う。上久堅に小学校はあり続けてほしい <p>上久堅の良さを発信していきたい。ただ待っているだけでは人は来ない。ムーブメントを起こしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上久堅小は環境が豊かすぎて(広すぎて)その維持が難しい。PTA 作業や地域の方に協力していただいている まちづくりと PTA の持ち場をはっきりさせていくことが今後の課題(漏れてしまう部分がないように)。 	

R4 学校運営協議会での意見交換【上郷小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
高陵中学校区	上郷小学校 7/20	<ul style="list-style-type: none"> ・上郷地域には高校もある。連携しながら大きな繋がりでも活動していくことができればよい。 ・高陵中学校区では探求の基礎をみっちり仕込んでくれるので、どこの高校に行っても大丈夫というようにしたい。 ・学校のカリキュラムと連動し自分の趣味を広げたい人もいる。そのような人たちも生かしていければ、地域で嬉々として頑張っている人を知ることも大事である。 ・19日の信濃毎日新聞の表面に全ての市が15%減少。地域の資源を磨き込んでいかないといけない。大人も子どもと一緒に考えていく。今現在何をやるか、カリキュラムにメスを入れていく。上郷独自のモデルカリキュラムを作っていく。小学校から中学3年まで子どもたちと一緒に大人も学んでいく。 ・小学校4年間で総合的な学習の基礎を気づいていく。地域の皆さんに支えてもらいながら授業にも地域の人たちが入り込んでいく。地域の人たちが学校に出かけていく。これまでと逆の発想。 ・公民館行事について、ペットボトルロケット、料理など非常に魅力ある行事が多い。保護者が積極的に参加してほしい。高学年や中学生は部活等でなかなか参加することができない。 ・自己肯定感の低さにびっくりした。キーワードとなる自己肯定感は全てに影響を与える。総合的な学習の時間が重要。地域の人材を活用し、地域の大人が子どもたちを褒めることの積み重ねが自己肯定感の向上につながる。地域の大人が地域の子どもたちを見守り育てていく。 ・自己肯定感が低い小学校も中学校も友達同士で話し合うことは結構やっている。思いを伝えたり書いたりすることができる子どもも多い。自己表現については会話だけでなく様々な方法、使い方を身につけていくことが大事。 ・自己肯定感が低いのは、褒めることが大事。学級通信で良いところを取り上げてくれている。それをもとに家庭でも認めてもらっている。帰りの会などで認めあう活動を行っている学級もある。このような活動が自己肯定感を高めることにつながるのでは。 ・上郷小学校のこどもたちのあいさつは、以前は返ってくることも難しい状況だった。最近は良くなってきている。地域の中ではなかなかできない面もあるが、小学校中学校とも職員がまず積極的にあいさつすることで良くなってきている。大人が自分たちのことを大事に思ってくれているなあと子どもたちが感じられるような大人たちからの働きかけが大事である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの地域にも地域の資源、財産がたくさんある。あとはどういう方法論でやっていか 高陵中学校では中一から自分でテーマを決めて1人で地域に飛び出して行って動いている 小学校3・4・5・6年の総合はモデルカリキュラムを作ってもらって、学校の先生だけでなく地域の大人がいっしょになって総合をお手伝いさせてもらいながら、小学校4年間で総合の探究ってこういうものなんだという学びをしておいて高陵中にいくようにする。地域の財産の学び方を上郷小学校ではこういう特色を持ってやりますよということ売りにしていかないと、いろんなところのマネになってしまう。特色や魅力づくりというところには傾斜をかけてやっていかないと難しい時代となってきた。こういう議論を学校、公民館、まちづくりでも行い、意気を高めていきたい 	

R4 学校運営協議会での意見交換【伊賀良小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
旭ヶ丘中学校区	伊賀良小学校 7/20	<ul style="list-style-type: none"> ・特色・魅力について3校小中連携一貫教育の取組を更に生かしていくことが特色に繋がる。 ・学校の特色は子供たちに学力をつける事である。ただ小学校に上がる前に既に学力に差ができてしまっている。小学校入学前までに何をすればよいか。それは本を読む事がいかに大事であるか。そういった面のサポートが地域としてできないか。PTA を巻き込んだりして読み聞かせをすることで、子供たちの言葉やコミュニケーション能力の向上につながってくるのではないか。 ・特色は地区の独自性を打ち出していくこと。自然の豊かさや里山とのふれあいや商業施設の見学を行うことにより社会を知る活動を進めたい。 ・学校の特色づくりについて、絞り込んでいくのもいいのではないか。例えば、国語力、読書力、体力は他校には負けないといった特化した取組も必要ではないか。 ・担任制から教科担任制への思い切った切り替えを考えてもよい。 ・地域との関りが変わってきている。新しい事をやるよりも今までやってきたことを掘り下げてゆくことが必要である。あいさつ運動など大事なことを見つめ直してゆく。 ・りんご愛護会の作業について今年からPTA が関わることになった。親が地域の行事に関わること。そんな親の姿を見て地域に対する愛着を子どもは覚えるのではないか。 ・まちづくりでの課題は組合加入率の低さであり親の意識を変えることが、子供の教育に繋がっていくのではないか。 ・登山等の体験活動を継続して行っていくことも大切にしたい。一方で学校の負担やリスクを考えると難しい面もあるため、どこが主催し計画していくかが課題である。 ・学校は本来学力を含め生きる力を培うところ。しつけなど基本的な部分は家庭で頑張るべき。一方で、家庭環境が昔に比べて多様化している現状がある、昔のようにしつけをするにも難しい面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化について取り上げられているが伊賀良地区は少子化に伴う合併や統合は当面関係がない。 ・その地区への新規入所者は地域に馴染みにくい。地域に馴染める行事も少ない。居住者が入居者に対して何か巻き込むような活動ができれば地域として盛り上がる。 	

R4 学校運営協議会での意見交換【竜丘小学校】

校区名	学校名	特色・魅力ある学校づくり	その他	備考
緑ヶ丘中学校区	竜丘小学校 7/22	<ul style="list-style-type: none"> ・竜丘の良さは、自由画教育から始まる大正時代から引き継がれた財産がたくさんある。それを学校でも生かさせていただいている。学校が地域の財産、学ぶ価値のあるものを PTA とも協力しながら磨きをかけていくことが大事ではないか。竜丘図書館でもキャラクターを作ったりして盛り上げてくれている。 ・自主性について、子どもたちは役割を与えると動ける。与えないとなかなか動けない。指示をせずほっておくとちゃんとやっていく姿も見られる。そういう姿を大事にしていきたい。子どもたちに多くを与えすぎている。子どもたちも与えられ慣れている。大人たちも自主性をどうやって育てていくか考えていきたい。 ・地域との関わりについて、竜丘地区はとても良い関わりができていて学校でも欠かせなくなってきた。ただ、核家族が増えている中でこれからの担い手不足が課題である。 ・昔に比べると先生方と地域のつながりが弱くなってきている。ボランティアの方に支援していただいているが、そういう方を探すのも大変になってきている。お金の問題もあるし、難しくなっている。地域や PTA、部活に関わる組織などが主体性を持って取り組めばもっと関わりが持てるのではないか。 ・子供と地域、各区との関係、自主性をどう育てるか。学年対地域という動きが多い。例えば 6 年生は竹林、各区の方も大事に見てほしい。 ・地区で縦割りをして独自の活動を生めないか。地区の方に参画していく仕組みを作ることができないか。核家族、担い手不足、子どもたちからのアプローチも必要である。 ・コロナの中で行事が小規模になってきているので参加するハードルも下がっているのでは。この時期だからこそ、参加しやすい行事、開かれた行事を各地区が考え始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティースクールは H28 年に立ち上げ、H29 より実施。コミュニティースクールの在り方の講演会に 80 人くらい集まる。先生方との交流会も行った。コミュニティースクールが始まって 6 年目。関わってくれる人が高齢化し減ってきている。事務的な連絡だけでなく、先生方と地域の方が腹を破って話し合う場をこれからも大切にしていきたい。 	